

【議事録】令和6年度 第1回彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会

日時：令和6年7月2日(火)15:30～16:45

場所：彦根市役所5階 会議室5-1

1 開会挨拶（教育長）

- ・本協議会は、学校教育の一環である部活動を地域スポーツに移行し、中学生が継続してスポーツ・文化活動に親しめるようにすることを目的とした会議である。
- ・中学生は現在3,000人だが、10年後には2,300人にまで減少し、1学年2学級以下の学校も1校から3校へと推移する。
- ・部活動の在籍率も徐々に低下してきており、サッカー、野球の単独行での活動が難しい現状もある。
- ・こうした現状を鑑み、令和8年度後期から、休日における中学生のスポーツ文化クラブ活動を地域で実施すべく、環境整備に努めたい。

2 自己紹介（所属・名前）

- ・全委員が自己紹介

3 会長・副会長の選出

会 長：びわこ成蹊スポーツ大学 黒澤寛己教授

副会長：聖泉大学 多胡陽介准教授

4 報告事項（10分間）

- ・部活動地域移行の令和5年度取組について（スポーツ・文化・調査）
- ・スライド資料（運動部、文化部、調査について）参照

【質疑応答】

剣道部の地域移行の受け皿は彦根市剣道連盟ではないのか。

→現時点では、元教員や兼職兼業の剣道部の顧問を中心とした「彦根市中学校剣道部地域移行を進める会」に担っていただいている。

5 協議事項（45分間）

【情報提供】（スライド資料）参照

- ・全国の動きについて

神戸市、掛川市…平日も含めて、令和8年度より地域移行

福井市…令和7年度末で休日部活動を廃止

奈良県…令和7年度末までに休日部活動を地域へ移行

熊本市…地域移行は見送り（学校部活動を維持）

- ・国、県の動きや考え方（予算等）について

部活動の地域移行に係る国の委託金が、令和6年度は大きく減額した。

国から、各市町の自主財源や受益者負担等によって、持続可能な体制を整備していく考えが示された。

滋賀県は昨年度まで、総合型地域スポーツクラブを主体とした地域移行をメインに考えてきたが、今年度に入り、地域連携に力を入れるような動きに方向転換した。

① 改革推進期間（R 5～R 7）終了後のプラン・考え方

【提案】今年度の取組

- ・稲枝中、水泳、剣道の取組の継続と下半期からの新規取組
- ・取組内容の積極的な発信（通信、広報、ホームページ等）
- ・推進計画（全体版・概要版）の策定
- ・改革推進期間（R 5～R 7）終了後のプラン・考え方を具体化させるために

【協議】

- ・地域移行（掛川市、熊本市）の方向性の違いはどこから生まれているのか。彦根市の考え方は、福井市に近いように思うが、それが本当にふさわしいか、調査をするべき。
- ・主管が学校教育課であるといつまでも学校部活動の考えから脱却できない。地域に移行するということは、受け入れ側である市長や市長部局が大きく動かないといけないのではないか。
- ・サッカーや野球は、受け入れ先があるので学校部活動が縮小傾向にあると考えると、今後、学校に残す部活動、地域に移行していく部活動を考えていくべきでは。
- ・先行的に進めている市町の調査を行い、どこを目指していくのかははっきりさせていくべきでは。
- ・教員の兼職兼業は、簡単ではない。教職員アンケートの結果を考慮すると、36%の部活動しか残らないということになる。
- ・彦根市の子どもたちが活動できる機会や場所を確保していくためには、市全体で考えていくべき課題である。
- ・平日の部活動は学校に残すという考えだが、活動時間についてはどのように考えていくのか。
→原則、勤務時間内で終え、それ以降は学校部活動ではないという形にしないといけない。
- ・県内で 16:30 まで活動し、それ以降は別の場所で活動ができる自治体もある。彦根市の平日は上限 4 日間活動。3 日間に行っている自治体もある。彦根市は現在 17:30 までとなっている。
- ・学習指導要領の改定時に、部活動がどうなっていくのか、想定していく必要がある。
- ・予算が大切。予算を積める動きにしていける必要がある。

② 取組を充実させるために・・・今後の協議会のもち方について

- ・今年度は全体会の開催とともににスポーツ体制整備部会、文化クラブ体制整備部会、学校調査部会の 3 部会に分かれて、協議をしていきたい。

6 事務連絡

- ・今後の協議会の予定 ※本日と同時間帯
 - ① 全体会（計 2～3 回）
 - ② 部会（スポーツ体制整備、文化クラブ体制整備、学校調査）

7 閉会挨拶（会長）